

平成27年度第1回島根県総合教育会議（議事録）

日時：平成27年9月4日（金）

10時～11時30分

場所：県庁3階 301会議室

○溝口知事

皆様方には、お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。皆様方には、日ごろから島根の教育行政に格別の御尽力を賜っております。厚く御礼を申し上げる次第でございます。

本年4月から地方教育行政法が改正されまして、県におきましても、教育委員長と教育長が一体化された新しい教育長として藤原教育長が7月に就任をいたしました。新しい教育委員会制度のもとで教育行政がそれ以来進められておるわけでございますけれども、本日は、総合教育会議、1回目の会合になりますが、知事である私と教育委員会とが、教育に関する方針、あるいは重点施策について、また緊急を要すべき課題につきまして、協議・調整をすることとなります。

今回の改正の契機となりましたいじめ等の重要問題につきましては、児童生徒の生命、身体の保護など、緊急に対応すべき措置につきましてこの会議で意見交換しまして、両者が方向性を共有しながら進めて、迅速に対応していきたいと考えておるところでございます。

本日は、2つの事項について協議をしていただくこととなります。1つは、教育に関する大綱についての協議であります。大綱につきましては、策定された後も、新たな課題が生ずればその都度この会議で協議をしていただき、必要な見直しを行っていききたいと考えております。2番目は、今日の会議では、先般公表されました全国学力テストの結果をもとにしまして、子どもたちの学力をどのように育成をしていったらいいかなどにつきまして、委員の皆さんとの意見交換をさせていただければと思います。

教育委員会の皆様と意見交換ができるこの機会を生かしまして、これまで以上に教育委員会との連携をしながら、島根の教育の発展、充実に向けて取り組んでまいりますので、よろしくお願いを申し上げます。

本日、忌憚のない御意見、御提案をお願い申し上げます。よろしくお願いを申し上げます。

この後の進行につきましては、私がするか、あるいは代理がするというようなことにな

っておりますので、小林教育監に司会進行をお願いをいたしたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○教育庁教育監

最初の総合教育会議でございますので、5名の教育委員さんにまず簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

(教育委員自己紹介)

○教育庁教育監

最初の議題でございます島根県総合教育会議の運営について、事務局から説明をお願いいたします。

○(事務局)

資料の1と2により説明

○教育庁教育監

資料1、2に基づいた説明について御質問、御意見等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○教育庁教育監

それでは、この運営要綱に従って運営をさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。

(了承)

○教育庁教育監

次に、2つ目の議題、教育に関する大綱の策定方針等について、事務局から説明をお願いいたします。

○(事務局)

資料の3により説明

○教育庁教育監

今後この大綱策定をしていくということでございますので、今の説明、あるいはお手元の資料をご覧になって、御意見等ございましたらお願いをいたします。

○岡部委員

この盛り込む案の中に、青少年健全育成とか、それから高等教育の充実という項目がございます。これは教育委員会の事務の中で、直接的に担当してこなかった部分でもあるわけなんですけれども、いわゆる知事部局のほうでずっとされてきたことなんですけれど

も、この大綱の中で協議していいのかどうなのか。もちろん、こうしたものが入ることについて、私は特に異論はないわけですが、そのことを事務局としてどのように考えておられるのか、ちょっとお聞きしたいところです。

○（事務局）

先ほどの説明の中でも申しましたように、この大綱につきましては、単に教育委員会、教育だけじゃなくして、それを取り巻くような項目についても大綱に盛り込むことが可能だということですので、先ほど子育て支援だとか、あるいは健全育成だとか、これは非常に教育とかかわりのあることであるので、必要であるということですのでここに記載させていただいております。

○岡部委員

高等教育についても、その連続で考えていくということですね。

○（事務局）

高校と大学との連続ということとか、連携が非常に深まっているということがございますので、今回の大綱の項目としては盛り込んでおります。

○溝口知事

高等教育というと、どこまで入りますか。

○（事務局）

大学、そして高専も入ります。

○溝口知事

そこは、それぞれの大学なり高専の方針がありますからね。それが基礎になると思います。県との関連で意見交換などはしますが、どこまで大綱に織り込むかというのは、それぞれの学校の自律性、独立性がありますから、そこら辺を考えながら、実際にどこまでするかということはまだ決まってないということじゃないかと思えますね。

○仲佐委員

県の総合発展計画と、それからしまね教育ビジョン21との整合性を図りながら大綱を作っていくということです。このようなすばらしい計画が各教育現場にやはり浸透して、そして、それぞれが実行されないと意味がないように思うわけなんですけども、実効性のある形で着実に実行されていくことも検証していく必要があるかと思っております。今の義務教育だけでなく、幼・小・中・高までの幅広い人材育成を展開していくことはとてもよいと思っております。教育大綱が他の計画と密接に連携していくということも重要であ

ると思います。そして、知事部局と教育委員会との協議の場ができたということは、大変大きな意義があるように思っております。

○広江委員

先ほども出ましたけれども、大綱が島根県総合発展計画やしまね教育ビジョン21との整合性を持ってというお話ですが、しまね教育ビジョン21、去年策定をしたときに、その基本理念というのは、「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」という形でございます。そうすると、2枚目のところの教育の充実のぼつの2のところ、ふるさとに愛着と誇りを持ち、これは当然のことでございますが、やはりそういうことのためにも、また社会の一員として自立していくために世界的な視野を持ったということをややはり触れたほうがいいですし、そこにも重点を置いたほうがいいと思います。

○溝口知事

子どもから大人になっていく過程でどういうふうにするかというのは、総合発展計画と申しますか、県の計画をつくる段階で教育委員会からも当然御意見が出るわけでありまして、それを出していただいて、それを、ほとんど一体的なものじゃないかと私は見ておりますけれども、実態はどうですか。

○藤原教育長

そうですね、実際に総合発展計画を作るときには、各部局で意見を出す中で作っていくわけで、今の総合発展計画は、ちょうど今年度で終えて、来年度に向けて新しく作っている最中ですので、この大綱に盛り込む中身とか、今おっしゃったようなことをこちらから出して、整合性の取れたものにするようになります。

○溝口知事

それは、教育委員会では整合性を図るように意見を言っていくということですね。

○藤原教育長

そうです。

○溝口知事

もう少し後になりますけれどもね。それは、いつもやる通常の見直しでございますから、特別なことじゃありません。

○藤原教育長

ビジョンも、この大綱の中身を決めていく過程で、仮に、多分ほとんどずれないと思いますが、仮にずれることがあれば、ビジョンのほうを今度は改定して、全体が整合性が

とれたものにしていくという考えでいきたいと思っております。

#### ○森委員

発達段階に応じた教育の振興のところで、幼保小中高が連携を図りながら、発達段階に応じたきめ細かな教育を推進しますとありますが、最近、どこの学校でも、例えば発達障がい等、支援の必要な子どもたちが増えているのは現実です。ぜひ、この中、精査されて、詳しい内容を作られるときには、そういう子どもたちというのは、手厚い指導をすることで発達障がいというのはかなり改善される部分があると思いますので、そういう項目をきちんとうたって入れていただけたらなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ○原委員

大綱に盛り込む項目の案のまず1番目、教育の充実というところで、人づくりの大切さという言葉があります。教育といいますと、私たち保護者はどうしても目の前の子どもたちの学力ですとか、そういった、とっても喫緊の課題みたいなところに目が行きがちなんですけども、やっぱり人をどうつくっていくかということが一番大きいことだなと思って、それが先に掲げられてあることを、これは本当にそうだとつくづく感じました。

人をつくるということで、私、たまたまこの間生まれたての赤ちゃんを見たんですけども、この生まれたての赤ちゃんを本当に自分の足で立って、そして自分で働いてというふうに一人前に育て上げるというのは、本当にいろんな人の力が要るということを、赤ちゃんのその顔を見てつくづく思いました。私が保護者として、学力も大事です。でも、やっぱり体力もつけてほしいし、社会適応力、コミュニケーション力、生きていく力、そういった大事なものをみんなをつくってあげたい。島根県の子どもたちをみんなで育て上げていきたいという、そういう思いが大綱に込められていて、いろんな分野にわたってとても丁寧に書いてあるので、本当に丁寧に子どもをつくっていきたいなと、この大綱を読んで思いました。

島根県らしさを考えるときに、私は投票率が一番、それから国民年金も納付率全国一、そういう生真面目さは、決して教育委員会が必死になって言い続けてきたことではなく、やっぱり島根県が持つ風土で人を育ててきたということがあるので、そういうことを教育として考えていきたいなと思いました。以上です。

#### ○教育庁教育監

今年度中にこの大綱を策定することになりますので、またこの会でも御協議いただけますので、また御意見等を伺って作っていききたいと思えます。

○岡部委員

多分、事務局サイドで、今日出たような意見をもとにまとめていかれると思うんですけど、今後の若干のスケジュール的なことがわかれば教えていただきたいと思うんですが。

○（事務局）

今のスケジュールといたしましては、11月か12月頃に1回会議を開催して、その段階での案を、また御協議いただきたいというふうに考えております。

○教育庁教育監

この件については、引き続きまた御意見等を伺わせていただきたいというふうに思います。それでは、3番目の議題、学力育成について、まず藤原教育長のほうから説明をお願いします。

○藤原教育長

資料の4により説明

○教育庁教育監

ただいま教育長のほうから今回の調査の結果の概要、それから、これまで、昨年度等からの対応、今後この結果を受けての対応について説明をいただきました。この学力の問題につきましても、各委員さん、いろいろお考えがあると思いますので、忌憚のないところでまた御意見を出していただきたいというふうに思います。特に項目は縛りません。

○溝口知事

地域の人材、施設を活用するということは、どういう意味ですか。

○藤原教育長

教育の中で、地域と連携していくこと。地域の人に例えば学校へ来て教えてもらったりすることです。

○溝口知事

手伝ってもらったりするということですか。

○藤原教育長

はい。地域との連携、地域の施設の活用ということが他県と比べると、島根県はそうしているという回答が多いということです。ふるさと教育等で非常に地域と一体となって教育している部分がありますので、そのあたりで、この数字が高いことはいいことだというふうに評価しておるところでございます。

一方で、最後のぼつですが、算数の勉強は好きですかといった問いに対して、好きだ、

ある程度好きだと、好きだの方向で回答した児童の割合が全国で最も低いというちょっと残念な結果が出ております。これは、学習意欲、あるいは学ぶ力という点でも少し問題があるというふうに感じておるところでございます。

○仲佐委員

先ほど教育長から、御説明いただきました中に、有識者の意見を聴く会ということがありました。けさのニュース見てましたら、メンバーの発表がございましたけども、これとは違う、これはプロジェクトチームのほうですか。

○藤原教育長

けさのニュースは、資料の2つ目の丸の算数のプロジェクトチームのことです。

○仲佐委員

やはり学力は、何年も課題となっている案件だと思います。いろんな施策をもって前に進めている中で、それでもなお結果が昨年より下がったということは、やはり現場を預かっていらっしゃる教職員の先生方が、いかにできる子、できない子をどこまで把握されていて、要は先生がその問題点を吸い上げる場所があるのかなのか。の検討が必要ではないか。先生方の教育、研修ということをよく耳にしますけども、研修したからいいのではなく、その問題点が何かというところをやはり根本的に検証していかないと思います。こういうことをやったから翌年は良くなるだろうということだけでも、結果はやはり毎年こう下がってきていると、これは何故かという、ことを検証しないと。思い切った取り組みをやらないと、結果を見たらまた下がっていたということは、やっぱり我々当事者というか、関わっている者にとっては非常に残念なことなものです。いろいろと取り組むには予算が関係してくるからなかなか難しい面もあろうかとは思いますが、思い切った何か施策をやらないといけないように思います。それは今じゃないかと思うんですよね。それが何かというところはなかなか難しいところがございますけども。

○溝口知事

そういう経年的な変化はどうなってるんですか。例えば、算数についてのここ数年の動きとして。恒常的に悪いのか。

○（事務局）

算数の状況について、平均正答率の推移を見ますと、全国平均との差でございますけれども、平成19年度から実施しておりますが、平成19年度はほぼ全国平均並みでございました。それが20年度にA問題のほうはマイナス1.6、それからB問題のほうは

マイナス1.7という状況が出ました。平成22年度は、これは抽出での調査でございましたけども、A問題がマイナス3.2、B問題のほうはマイナス2.2となっております。

そして、その後、A問題は少し、マイナス2.4、マイナス2.9、マイナス1.8と。今年度はマイナス2.8という状況ですので、全国とは、A問題の場合がマイナス2ポイント強、差がある状況が続いております。そして、算数Bにつきましても、その後、マイナス2.6、マイナス2.6、そして昨年度はマイナス1.7と少し改善が見られたところでしたけども、再び今年度はマイナス2.8という状況になっているところでございます。

○溝口知事

改善するときもあるわけですね。だから、そういう原因の分析が必要なような感じがしております。それから、他の県で何をやってるかを情報収集することも必要ではないかと思っております。試験問題に沿ったようなことをかなりやっておられるというようなこともあるのかもしれませんが、島根の中だけではなくて、他の県での対応などもよく調査されることです。こういうものがあまり大きく変動するということはあまり考えられないんですけども、1ポイントぐらいは簡単に下がったり上がったりするわけですね。ランダムなところがあるわけですが、基礎的なところはどういうことなのかと、それを全国、他のところ、非常に高いところはどういうことをしてるんだろうとか、やっぱりそういう先進事例をよく見ていくことが、必要なという印象を持ちましたね。

○藤原教育長

そのあたりは私どもも必要だと思っております。プロジェクトチームには、できればそういった先進県の教育委員会にも入ってもらう方向で考えたいと思っております。そういうのも参考にしながらやっていきたいと思っておりますし、確かに上下ありますけれども、算数は比較的ずっと、上がったたり下がったりしながらも、あまり高いところには行っていない状況です。

○溝口知事

全体としては、成績が高いところに行っていないということですか。

○藤原教育長

行っていないです。私は、その辺の最大の課題は算数が好きな子どもの割合が低いということだと思います。当然算数の好きな子どもが多い県は算数の成績がいいんですね。大体そうなる傾向にあると思います。

○溝口知事

それは成績ですか。

○藤原教育長

必ずしもそうじゃないかもしれないですが、傾向としてそういうことがあります。

○溝口知事

そりゃ、あるでしょう。

○藤原教育長

やはりそういう、少なくとも算数が好きな子どもをもうちょっと増やしたいというのが最大の課題だと思っております。その辺をどうしたら関心を持つか、意欲を持つかというところを特にプロジェクトチームで研究してもらって、それを現場へ返していきたいというふうに思っておるところでございます。

○溝口知事

学年はどうなりましたっけ。

○藤原教育長

これは全部6年生です。

○溝口知事

6年生ですか。

○藤原教育長

はい。

○広江委員

今年度の結果については、非常に残念な結果でございますけども、1年ごとに例えば良くなった悪くなったということも大事だと思いますが、例えば、今の中学校3年生は小学校1年生のとき以来どうだったのか、それから来年は今の中学2年生が受けますけども、小学校6年のときのその生徒たちはどうだったのか、どう伸びたのかということを見ないといけないと思うんです。その感じでいきますと、小学校のときは今の中学校3年生よりも少し中学校2年生のほうが厳しい状況にもあったように思っております（記憶しております）。そういう意味で言いますと、今大きなきちんとした手を打たないと、このままいきますと、その伸びが同じであると仮定すると、今年よりは振るわないのではないかとこの危惧を持っています。そういう意味では、非常に思い切った案をとらなければいけないし、それから、先ほど言われましたように、この学力調査の結果が、もちろん点数でござ

いますけれども、その裏に学習意欲や知的好奇心とかいろんなこと、それから家できちんと自分を律して勉強できるというようなところも、完全ではございませんが、ある程度推測できる状況にもございます。

そういう意味でも、この結果は重く受けとめなきゃいけないと思っておりますが、特に家庭学習がずっと長い間、島根県は短い短いと言われております。それは、実は啓蒙だけではなく、何か手を打たないとやっぱり難しいだろうというように思っています。例えば授業を改善するのはもちろんのことですが、授業で分からせた上で、宿題を出して確認、ドリルをする、そして、その確認、ドリルをしたものをチェックする。チェックをして、どこがひっかかっているか、わからないところを個人指導なり、できればしていく。そういうサイクルが必要だと思います。わかればおもしろくなる。おもしろいからわかるし、わかればおもしろくなるというところがございます。そのサイクルに対して何かをしていって、宿題をきちんとしてチェックをし、そしてフィードバックしていくという流れがやっぱり必要だろうと思っております。

そういう意味で、学校も非常に忙しい中ですので、例えば学校支援員とか個別指導支援員とかで、宿題などでもチェックの手伝いをしてもらっているようなところもあるように思うんですが、そういうところも少し研究していただきたいと思っております。特に、先進県の研究というのは割と進んでいますが、島根と同じだったり島根より振るわなかったところがかなり良くなってる県は何県もございます。そういうところは何をしているのか。そこから学ぶべきものは多いだろうと思っておりますし、そのことを学びながら、早急に手を打っていかないと難しいだろうと思っております。以上です。

#### ○溝口知事

そうですね。それから、県内でも6年生のときだけじゃなくて、サンプル的に、1年生のときは、例えばサンプル的なテストをして、それが2年生になり、3年生になり、4年生になり、5年生、6年生になって、どういう段階で算数の理解が難しくなり、それで、どういう段階で、そういう構成、できる人が少なく、できない人が多くなっているのか、いろいろあるんだろうと思うんですけども、県内でもそういう経年的な取り組みはやっているんですか。

#### ○藤原教育長

県単独の学力調査を、一方で全国学力調査以外にもやっております。それは小学校3年生から6年生、中学校は1、2年生。6年生はだからかぶるんで、かぶらない科目だけし

ていますけども、やっていますので、その追いかけ方は一応できます。

○溝口知事

1年生ぐらいからサンプル的に、全部やる必要はないでしょうけども、学校ごとになりやあって、そういう分析があつて、何をしたらいいかということが出てくる面があるんじゃないかと思います。そういうのを是非やっていただいたらいいんじゃないですか。どういうやり方があるのかわかりませんが。

○藤原教育長

その辺も意識してやるようにしております。

○溝口知事

それを経年変化で、学年進行と同時にどういうふうになっていくか。やはりこの問題は、中・長期的な文脈の中で粘り強くやらないと、一挙には解決できないんじゃないかという気がしますね。だから、原因の分析をやり、そして、今度は横では各県がどういうことをやっておられるのかということに基づいて、何が不足して、いつどうしなければいけないのか。短期間にどうしようということじゃなくて、少し長い目でやらないと難しいんじゃないかという印象を持ちますね。

○森委員

この成績はかなり残念なものがありまして、学校自身は大変つらい思いをしていると思います。この成績を児童生徒、そして保護者の方が実際にはどのように受けとめておられるのかなというのがちょっと気になっているところです。学力調査の結果は、松江市以外の市町村教育委員会は学校別のものは公表しないということにしております。この公表されないということは、自分の置かれている成績がどの辺にあるのかということが本人たち、保護者がきちんと把握していないということになり、成績向上というか、気持ちの上の向上をちょっと妨げている部分があるのかどうか。（私もよくわかりませんが）公表そのものはなかなか気の進まないことだというのは私もわかっておりますが、これが人ごとのような気持ちでいるとなると、なかなか成績は向上していかないというように思っています。全国で好成绩の都道府県というのは、先ほども出ましたけれども、家庭学習をやったりちゃんと普通に、強く言わなくても当たり前のようにやっているところは成績が伸びているというのは聞いたことがあります。ところが、今、1学年15分という家庭学習の時間を設けて、家庭に帰ったら1学年15分、2年生だったら30分みたいな形ですけども、これがなかなか児童生徒の少ない学校になりますと、部活ですとかスポ少に時間を

とられまして、この1学年掛ける15分という時間もなかなか確保できないというのは把握しております。ですので、全般的に見て、家庭学習の充実もなかなか地域によっては難しいことでもありますし、その辺も成績の向上につながらない部分があるかという心配はしております。この成績が今後の教育の盛り上がりになるように、これからプロジェクトなどを組んでやっていくのが私たちの課題かなと思って考えております。

○溝口知事

この算数のようなものは、家庭で自分で勉強しようと思っても、できない子はできないでしょう、わからないわけですから。だから、都市なんかでいえば塾に行ったりする人もあるいはいるのかもしれませんが、家庭学習しても、本を読んだりすることはできるけども、算数なんかでわからなくなったら、家庭学習だけじゃなかなかできないような感じがしますが、どうですか。

○藤原教育長

結局できるようになっている部分を反復して定着させるみたいなことが、どちらかというと家庭学習で多いんですよね。その辺、専門的なことはどうですか、算数の場合は。

○(事務局)

やはり家庭で学習するときは、子どもたちは学校で学んだことのより習熟を図っていくというような方向で、たくさん回数をこなしていく、あるいは速くできるようにしていくというようなことを目標にしながらやっていくことが中心になろうかと思えます。ですから、学校でやった内容が十分わかってないとすると、やはりなかなか時間もかかると思いますか、十分できないということで、その辺が、特に中学校の状況などでも家庭での学習が進まない原因の一つということになるのかなということは思っているところでございます。

○溝口知事

宿題みたいなものが出るんですか。

○(事務局)

宿題は、確実に各学校で、出しておられるようです。とりわけ小学校は全国平均に比べて、1時間以上勉強する子どもが多うございまして、小学校は、そういう習慣化ということについては、ある程度成果が出てきている。中学校も少しずつではありますけども、1時間以上という答えをしている子どもが少しずつではありますけど増えてきております。

○溝口知事

例えば算数で、宿題をしなさいと、今日学んだことを。そういうようなことはやっておられるのですか。

○(事務局)

学校ごとに宿題を、先ほどのような目標を出しながらやっておられます。

○溝口知事

それで戻ってこない、正答でない人がどういうふうにいるかとか、そういうようなこともやられて、やはりできない人は先生が教えないといけませんよ。だから、そこら辺がどういうふうになっているのか少し研究されたり、それが経年変化でどういうふうに変化してるのかとかやっていかないと、なかなか原因がわからない。何か知らぬ間に算数が嫌いになったというんじゃないかなような感じがするのです。

○藤原教育長

算数は積み上げだから、余計そうです。

○溝口知事

実際に、そういうものをフォローしながら各学校でやって、これは危険な兆候が出てきたとなると、そういう人たちを今度は特別にやっていくとか。思いつきのようなことを言って、いろいろ負担にもなるわけでしょうが、家庭学習というのを一体どうするか、はそういう感じがしますね。

○岡部委員

算数なんですけども、もう何十年も前の自分の体験を含めてもそうですし、ずっと言われてきたことなんですけど、算数の壁みたいなものがどうもいろいろあるみたいで、ステップアップしていくときに、それをうまく乗り越えていった者のみがというところが多分にあるわけです。その辺のところでは家庭学習で復習をして、個々のつまずきの部分もある程度チェックできる。そこで、この子はここがわかってないんだということが把握できれば、絞った形で指導できると思います。もちろん先生方の負担がさらに増えてくるのは一方ではあるかと思いますが、それぐらいのケアができればいいと思います。相互チェック、家庭でもチェックしなくちゃいけないですし、先生方もまた再度その辺をチェックして、ステップアップしていくところの算数の壁みたいなところをうまく取っ払って次の段階に進んでいけるような格好で、指導ができたらいいいと思うんです。

○溝口知事

だから、その壁が、いつ、どういうところで起こるのか、その原因は何かというような

ことが各学校ごとに先生たちが把握しないと、対応できないんじゃないですか。

○藤原教育長

この学力調査の中での、誤答についてなぜ間違えたのかという、そういう分析もされているというふうに聞いてますけれども、そういうところなんかも一つの今後の指導していくポイントになってくるのではないかなということも思っています。

○溝口知事

それで、うまくいっているところは、どういうことをしてうまくやっているのかということを知ることが必要だと思います。

○藤原教育長

そうですね。

○溝口知事

違いがあるわけですね。その違いの原因があるはずだから、そういうところがないとなかなか我々もよくわかりませんね。どういうことが原因で、何をしたらいいのか。正しい方向に進んでいるのか。やはり6年生だけじゃなくて、1年生から学年の進行ごとにどういう変化が起きてきている、それが生徒によってこういうふうに2つに分かれているのかどうなのか。どういうところがわからないのかというようなことは、私もどの程度大変なことかというのはちょっとわからないんですけども、そういうようなことをぜひ検討していただく。そうしないと、みんな何が問題なのかと、どこがいけないのかが、まるでわからないですね。

○広江委員

今、知事がおっしゃいましたように、算数の場合には、もしわからないと、これをずっととらんでも、10分たっても進歩がない。

○溝口知事

駄目でしょうね。

○広江委員

そういうところでの嫌いも出てくることは、そのとおりでございます。そして、授業の中で全部をどこまでわかっているかとチェックするのはなかなか難しい話です。全員はなかなか難しいので、私の考えでは、宿題を出すということはドリルもありますが、どこがわかっているのかということを知るためにも出していく必要があると思います。

○溝口知事

出す必要がありますよね。

#### ○広江委員

明るく日必ずチェックをしないといけないし、そして、その次に個別の指導も必要だろうと思います。そういう意味で、現実的になかなか難しいところもございます。すべてのものを見ておられる先生も多いとは思いますが、全部をチェックするというのは非常になかなか難しいことですし、それから、その次の個別指導も、他のいろいろな仕事があると何人もはできないというところです。そこで、例えば、今、私の住んでいるようなところでは、地域の方もその指導をしておられますけれども、それをやはり、ボランティアということではなく、制度としてそういうものを入れていって支援をしていかないとなかなか難しいだろうと思います。

#### ○溝口知事

先生がそういう宿題を作ったりするのは大変だから、市町村ごとに教育委員会があるわけですから、例えば算数なら学ぶ過程で共通の宿題のようなもの、たくさんじゃなくて、ポイントだけの標準系のもを作って、それを配ってチェックするとか。宿題を作るんじゃなくて、過程ごとに進展に応じて、どこまで、どのようなことをしてなきやいかんというのはそれぞれあるわけでしょうからね。何かそういうような形で、県内のこの横で見て、あるいは今度は学年の進行で見て、どういうところに問題がありそうだという把握をして、じゃあこういう対策を取ろうというような実際的なプロセスがわかりませんと何もわからないということになるんじゃないかというような印象を受けますね。いろいろと研究しないといけないかもしれません。

#### ○藤原教育長

恐らく個別にはそうです。県全体としては、今4月に全国学力調査をやっていますけど、恐らくもう先生方は、個別にどこが、どの子はどこが悪いかみたいなのをチェックして、ある程度、指導していると思うんですけど、県の学力調査を、今まで4月に一緒にしていたんですけど、今年度から12月に移しましたので、そこでもう一回その辺がどれぐらいできているかチェックしてもらうような機会をつくったり、県全体としてはそういう仕組み、PDCAを回そうということで、ちょっと今年から仕組みを変えております。

#### ○岡部委員

試験じゃなくして学力調査、学力テストじゃなくして学力調査なわけで、まさに調査の部分でこの結果というのは、もう一喜一憂するのではなくして、もっと冷静に受けとめて、

改善に向かって調査結果を分析して、さらに指導法も工夫して、それをアップしていくことが一番の課題ではないかと思っております。実際、悪いという受けとめを私らもして、それなりの危機意識を持ってはおります。

ただ、それとあわせて、学力だけではない教育、教育は学力がもちろん根底にはあるわけですけども、その上にいろんな、前段で原委員のほうからもちょっと出ていましたけども、運動能力とかコミュニケーション能力とか、それから読書力とか、いろんな教育を通じて学んでいく、そういう総体的な部分の中で子どもたちが学校や地域社会の中で切磋琢磨しながらいろんな力を身につけていくということになるろうかと思うんです。そうした指導体制、環境というのは、島根の教育は結構いい線行っているじゃないかと個人的には思っております。

例えば、都会から来た人が、常に驚くことなんですけども、挨拶ですが、子どもたちが道端で会って挨拶してくれることに感動するそうです。実際、私らもそういう経験を何度もしたことがあって、慌ててこちらから挨拶を返すようなこともあるわけです。そういうこと一つとっても、結構基本的な生活ルールを守って基本的な生きていく力を育てていくことにおいては、島根の教育は本当にいい線行っているんじゃないかと個人的には思っております。

もちろん、そのことが学力調査の結果が悪かったということと一概には結びつかないと思うんですけれども、一方で、前段で申しましたように、学力調査の結果は、あくまでも今後役に立てるためのまず基礎として冷静な分析、それから指導の工夫等々があって、その前提になるのが学力調査の結果だと私自身は位置づけておかななくちゃいけないなと思っております。この結果に、ああ、良かった、悪かったと一喜一憂するんじゃなくして、年月をかけて少しずつでもステップアップしていくような形で総合的に取り組んでいくことが必要だと思っております。どうしても学力だけ捉えて、いいだの悪いだのというふうになりがちですけども、もちろんそういう側面もあるし、私自身もそういうふうな感想を一義的には持ちますけども、それだけではなくして、ほかの部分も忘れられてはならない。学力のみにとらわれてはならないということも一方でしっかりと我々、肝に銘じておこななくてはならないと思っております。

その学力アップの中で、家庭学習が非常に問題点だというふうに、その時間の少なさということが問題点としてずっと前から言われています。ある程度家庭学習をうまくできる子どもはそれなりの学力を多分持っているんじゃないかと思えます。家庭学習の大切さを訴

えてもなかなか全ての家庭が応えてくれない部分があつて、学校を通じて家庭へ働きかけることと同時に、例えば県教委、市町村教委を通じてもまた家庭に別の視点で家庭学習を促進するような働きかけがあつてもいいんじゃないかなということをも今日の皆さん方の議論を聞きながらちょっと思ったところです。

#### ○原委員

算数の先ほどのお話に戻るんですけども、去年、教育センターが出しておられる「研究紀要」の学力調査の結果を踏まえてどういう取り組みをされたかというところをもう一回読んでみました。その中で、やっぱり今の授業形態として少人数学級を島根県は取り入れてきて、それは大変いいんだけど、算数の場合、少人数の習熟度の形態が全国に比べては割合が低いというようなことが書いてあつて、ああ、そういうところもこれからまた検討されるのかなと思いました。

福井県が1番だったので、福井県のことをいろいろ調べてみたんですけど、福井県も同じように少人数学級でずっと取り組んでおられまして、小学校は35人なんですけど、中学校1年生が何と30人で、2年生、3年生が32人。やっぱり丁寧な教育、鍛える教育という二本柱を掲げておられて、小学校の場合も低学年に少人数の加配がついたり、そういうことをしておられるようです。また、昭和26年から学力調査を行っておられるということで、ずっと長年取り組んでこられた結果が、先ほどの皆さんのお話を聞いていて思ったんですけども、やっぱりそれだけのことをずっとしてこられたからこそ出てきている結果なんだなというのを思いました。福井県も島根県と同じように共働きの家庭が多く、3世代同居が多く、そういった条件も同じです。ホームページを見て思ったのは、やっぱり地域を挙げてみんなで子どもを育てようという県の力みたいなものを感じました。体力も全国1位なんですね。それは本当にびっくりしました。そういうことを思ったということです。以上です。

#### ○仲佐委員

児童生徒の質問紙の中に、先ほどの話に出ていた算数、数学が好きだという割合も低いというところ、そして、問題の解き方がわからないときに、諦めずにいろいろ方法を考えるかというのも、これも全国平均を下回っています。もう一つ、授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法を考えているか、これも、小学校で7.3%低いし、中学校では10.2%低い。今度は、学校の質問紙に対して、補充的な学習の指導ができていないかというところ、小学校ですと、これも全国平均5.2%マイナス、中学校でも6.

1%マイナス。もう1点、発展的な学習の指導をしているか、していないかというところでも、小学校で8%低い、中学校でも15.4%低い。先生の指導の仕方も全国平均をかなり下回っている。そして、子どもたちがわからないところを諦めずに考える力、そして、別の方法を考えて解く方法、そういうのがやっぱりできてないというところに、先生の立場と子どもたちが受けてる授業が全くかみ合っていないわけですね。ということは、数学でも国語でもどの科目でも、学校は楽しい、そして、この科目は好きだというのが、やっぱり多くないと成績も上がっていかないと思うわけです。先生方の研修ということをよく耳にするんですけども、その他に何か授業を楽しくするような、子どもたちの興味を引くような授業の方法をやっぱり考えていかないといけないんじゃないかと思うわけなんです。学校は楽しい、そして勉強もよくなるというところがないと。ただ毎日、朝起きたら学校に行くんだというだけではなく、子どもたちが学校は楽しいんだと思えるような、そういう学校づくりも必要じゃないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

#### ○溝口知事

そういう点はいかがでしょう。島根では、先生と子どもとの関係は、人数が多くないところが多いでしょうから、比較的親密なんじゃないかという印象を持ってますけども、どんな感じでしょう。

#### ○(事務局)

知事のおっしゃるように、子どもたちと、より近くなる環境があり子どもたちと一体感がある、そういう声もたくさん聞いているところです。そういった中で、子どもたちの状況の中で、とりわけ小学校、中学校ともそうですけども、先生方から強く話題に出てきますのは、この子は今なかなか落ちつきを得るのに時間がかかる、あるいは、この子は今、家庭でいろんな状況があって、学校へ来ても、まずゆっくり落ちつくまでに時間がかかるとか、そういう子どもたちに何とか確実に力をつけて、学校が楽しいなとか、学校にまず来ることについて、一生懸命力を注いでおられるというところはとてもよく見えます。そういった中で、およそみんなができるような授業を心がけましょうと、みんなが確実に今日の目標ができるように心がけましょうということで取り組んできているところです。みんなそれぞれの思いがある状況の中で、今日勉強してこんなことが楽しくなったという授業になりやすく、みんなここまでできるようにしましょうという授業だと、できない子はちょっとできるようになろう、ある程度速くできる子は、僕はもうできているよという、その辺に先生方が一生懸命向かっている部分のずれがあるのかなということをお思います。ま

た校長としてのメッセージとして、みんな確実にできるようにしようねと言うと、どうしてもなかなかできづらい子どもに意識が向き、また、その子どもが少なくないですので、そういったところを余計に、少人数だからこそ余計に見えて、手厚くしていくという方向が今の様子に現れてるのかなということを感じるところでございます。

○藤原教育長

島根県はそれと複式が特に小学校に多く、教え方も単式とまた大分違います。算数なんかはどうしても積み上げで、行ったり来たりしながら先生がやる格好ですので、そのあたりのどうしたらうまくできるかみたいなのも考えて、研修も行っていきます。島根県は2年分を一つのカリキュラムにして、A、Bと2つに分けて、3、4年でも3、4年の混ざったカリキュラムを、入れかえ入れかえしながらやるような方式がありますが、算数はそういうわけにいかなくて、もうとにかく積み上げなんで、行ったり来たりしながら1人の先生がやるパターンなんで、勉強が今進んでないところがあります。

○溝口知事

そういうところのほうが悪いという何かあるんですか。むしろ、そういうところは生徒が少ないから、お互いにもうみんな生徒同士が知り合いだし、仲間みたいなもんでしょう。だから、学校の教育の雰囲気はいいんじゃないの。

○藤原教育長

雰囲気はいいと思いますけど。

○溝口知事

だから、むしろ騒いだりする子はいなくて、複式であっても。多分そういうところは、子どもたちを静かにさせるために使うエネルギーというのはほとんどなくて、割と教育しやすいんじゃないですか。どうなんでしょう。

○藤原教育長

教育しやすいと思います。

○森委員

複式の学校が私のいるところは多かったんですが、今それを少なく、今度それもなくなるところなんですけども、複式をなくすときに、地域からものすごく反対されるのは、学校をなくしてもらっては困る、手厚い教育をされているという地域の方の思いがありまして反対をされるんですけども、実際に教育委員会ですとか学校関係者から見ますと、確かに仲がよくて、みんな協力し合っているところがありますが、逆に言いますと、子どもた

ちの中で切磋琢磨して頑張っ前へ進もうという気持ちが育たない。

○溝口知事

競争の意識ですか。

○森委員

なくなるんです。みんな手をつないで一緒に行こうというような、優しい思いのほうが強くなります。

○溝口知事

子どもは優しく育つでしょうね。

○森委員

そうなんです。とても優しい子どもが育って、それを地域の方から見ると、いい子だから、だからこの複式はなくしてもらっては困るとはおっしゃいますけれども、保護者ですとか教育関係者、教育委員会のほうの考えになりますと、子どもたちは、今度中学に上がったときにいろいろと中1ギャップと言われるような、その子にとってはちょっと衝撃的なことも起こりますので、やっぱり小さいときから切磋琢磨して競い合う心というのは必要です。

○溝口知事

そういう要素が少なくなる。

○森委員

複式では少ないような気がします。

○溝口知事

少ないことがあるかもしれない。

○森委員

あります。一歩前へ進もうという気持ちがどうしてもそこで抑えられるというか。

○溝口知事

みんな仲間で仲よくやっていると。

○森委員

そうなんです。特に、学年が抜けている学校というのがあるんです。6年生がいなくてとか、1年生がいなくてとか。そうなりますと、余計に前へ進もうという気持ちというのはなくなってくるのが複式の弊害ではないのかなと思っております。それで今、どこの地域でも、複式をなくして統合していこうという方向に向かっているんだと思います。

#### ○藤原教育長

先生が大事だという話はもう当然で、それは研修みたいな格好でいろんなことをやるんですけども、研修も、今までどちらかというところ集まってもらって、例えば松江とか浜田とかでやってたのを、さっきの複式の話に戻るが、小さい学校が多く、先生1人でやられるともうすごく授業に、大穴があくんで、どちらかというところ出かけていく格好に今年度ぐらいから、できるだけ現場に近いところで、研修も精選して回数を減らして、例えば月曜日、火曜日はもう集まっての研修はしないとか、そういったふうに変えてきております。そういった研修のやり方の成果が、実際出てくるのはこれからだと思いますけれども、そういったふうな、集めれば集めるほど、逆に今までのやり方だと先生が学校にいないと子どもたちが困るみたいなこともあって、そのあたりもいろいろ今回のプロジェクトチームの結果なんかも見ながら、できるだけ出かけて行って、学校で浸透するようにしていきたいなというようなことも考えております。

#### ○教育庁教育監

それでは最後に、知事からまとめをお願いします。

#### ○溝口知事

まとめるというほどでもないんですけど、今日は1回目の総合教育会議でありますけども、皆さん方から率直なと申しますか、皆さん方がお感じになっていることを私どもにお伝えをいただきまして、大変参考になりました。

今日は2つあったわけですけども、大綱につきましては教育委員会だけの話になりますけども、県のほうとしても考えなきゃいかんことが、若干広い面がありますから、そこはこれからよく協議をしながらまとめていきたいというふうに思います。

それから、学力育成の話につきましては、教育長からお話がありましたように、昨年、この学力推進プランを作成して、市町村教育委員会と共同で2つの会議を立ち上げておられます。この学力育成会議、学力育成実務者会議を。既に、今回の学力テストの結果も踏まえて始めておられまして、ぜひそういうところで議論を重ねていただきたいというふうに思います。

それから、やはり県内の方々も非常に関心の高いところがございますし、教育の現場から外におられる有識者の方々、あるいは保護者の方々からも意見を聴く会を設けて検討されるということをごさいますして、その結果をまたこれからの教育行政に反映をするように努力をしていただきたいというふうに思うところでございます。

そのほかにもいろんな対応が進めておられますので、私どもとしましては、教育委員会  
が今説明をされた方向で学校の現場、保護者の声などもよくお聞きをしながら、全力を挙  
げて迅速に対応していただければ幸いですので、よろしくお願い申し上げますと  
ともに、今後も取り組みの進捗状況を見ながら皆さんとよくまた意見交換をしてまいりた  
いというふうに思いますので、よろしくお願いを申し上げます。以上であります。

○教育庁教育監

今後の会議日程でございますが、2回目を11月なり12月頃に開催をしたいと思っ  
ておりますので、また改めて通知をさせていただきます。

本日は御苦労さまでございました。

○溝口知事

どうもありがとうございました。